

灯油の購入を助成します！

申請受付は、
平成20年11月10日からです

助成の対象になる方

平成20年11月1日現在津別町に住民登録され、平成20年度の町民税が非課税世帯であって、次の要件のいずれかに該当する方。



該 当 要 件		助成する灯油の量
高 齢 者 世 帯	70歳以上の独居であって、年収が834千円未満の世帯	150リットル
	70歳以上の独居であって、年収が834千円以上1,480千円未満の世帯	75リットル
	65歳以上の者で構成されている世帯であって、そのうち70歳以上の者が1人以上いる世帯で、世帯合計年収が1,241千円未満の世帯	150リットル
	65歳以上の者で構成されている世帯であって、そのうち70歳以上の者が1人以上いる世帯で、世帯合計年収が1,241千円以上1,930千円未満の世帯	75リットル
母 子 家 庭 等	母子及び寡婦福祉法に規定する配偶者のいない女子が満18歳未満の者を扶養している世帯	150リットル
	父子家庭の父が満18歳未満の者を扶養している世帯	
	両親の死亡または行方不明等の理由にある満18歳未満の者を扶養している世帯	

該当となると思われる方は、印鑑、平成19年中の収入（家族全員分）がわかる書類（公的年金源泉徴収票など）をご持参ください。

助成の対象として認定された方には「福祉灯油助成券」を交付しますので、町内の灯油取扱業者に助成券を提出して購入することとなります。

申請・お問い合わせ先
役場保健福祉課介護福祉グループ福祉担当
（役場1階11番窓口）
☎ 76-2151 内線233・299



支援の必要な子どもへの理解
二宮准教授が特別支援教育を語る
9月29日、特別支援教育連携協議会主催で「支援の必要な子どもへの理解と特別支援教育」をテーマに講演会が開かれました。
講師となった道教育大釧路校の二宮信一准教授からは、子どもの情緒発達や学習能力のメカニズム、親や教師が子どもの行動を理解することの大切さなどについて、家庭や学校での身近な例をあげて話がありました。また「障害児であるか分からないのか」を読み取ることが大切と話し、受講した120人ほどの父母や教師などは、真剣な表情で聞き入っていました。

「じじっかんフェスタ2008」が、9月27日児童館で初めて開催されました。ホールでは人形劇団「なるにあ」の公演も開かれ、児童館を利用して子どもたちや幼児、父母など約300人が訪れ賑わっていました。
この催しは、活潑・本岐・津別の3地区の児童クラブの子どもたちが、8月から実行委員として手づくりで準備してきたもので、コーナーごとにアイディアいっぱいの飾り物が並べられ、また、ボーリングゲーム、輪ゴムを使った射的ゲーム、ヨーヨー釣り、1階のカフェテラスでは、ケーキやサンドイッチなども用意され、会場内は子どもたちの熱気に包まれていました。



児童館フェスタ2008
手づくりのゲーム飾り物づくり

生ごみをリサイクルし有効活用
多くの町民に無料還元
10月19日、町民を対象に生ごみ堆肥の無料還元が行われました。
この堆肥は、各家庭から分別して出された生ごみを利用し、長期間寝かせた良質の物で、例年好評をいただいています。共和の堆肥センターには、事前に申し込みをしていた町民が軽トラックや乗用車で訪れ、持参した肥料袋に次々と詰め込んでいました。
この日は開始から3時間ほどで400袋が町民に還元され、リサイクルへの関心の高さがうかがえます。



救命救急に頼もしい1台
高規格救急車の寄贈を受ける

平成10年に導入の救急車に換わって全国共済農業協同組合連合会より高規格救急車の寄贈があり、10月1日に津別消防署で受納式が行われました。
式では、共済連道本部北見支所の深澤嘉憲所長よりマスコトキーが佐藤町長に手渡されました。津別消防署では、昨年1年間で224件の救急出動があり、救急業務の重要性が高まっています。
救急資機材は、これまで同様に動脈血酸素飽和測定器や自動体外式除細動器など数が搭載され、軽量、コンパクト化により現場での取り扱いが容易になり、また山間部でも医療機関と通話可能な衛星電話も装備されています。